

2020年度 地理Bシラバス

科目 地理B 単位数 4単位 学年 2年(1, 2, 3組) 3年(5, 6組)

| | |
|------------|---|
| 学習到達目標 | 1. 現代世界の地理的認識を深める 2. 系統地理的、地誌的な探求の方法を学ぶ学習を通して、地理的な見方や考え方、地理的技能を身につける 3. 1・2の学習の成果に立って、現代世界の諸課題について主体的に考え、行動する自覚と態度を養う |
| 使用教科書・副教材等 | 1. 新詳地理B 2. 新詳高等地図 3. 新編 地理資料集2020 帝国書院 帝国書院 とうほう |

2. 学習計画及び評価方法等

(1)学習計画

| 月 | 単元と項目 | 時数 | 学習の目標(わらい)及び内容 | 評価の観点 | | | | 評価規準 |
|---|--|----|--|----------------|------------------|------------------|------------------|--|
| | | | | 関心 意欲 態度 | 思 考 判 断 | 技 能 表 現 | 知 識 理 解 | |
| 4 | 第1部 さまざまな地図 1節 現代世界の地図 | 1 | 現代世界の地図について、さまざまな時代や種類の地図の読図などの活動を通して、各時代の人々の世界観を捉え、現代の地図や身近な地図の有用性に気づく。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | 【関】・現代世界の地図について、さまざまな時代や現代のさまざまな地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、現代世界の地図に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】・現代世界の地図について、各時代の人々の世界観、GPSやGISなど現代の地図や交通案内図など身近な地図の有用性を考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】・世界観の変化や現代の地図に関する諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、現代世界の地図について読み取ったり図表などにまとめている。 【知】・世界地図における各時代の人々の世界観の変化やGPSやGISなど現代の地図のしくみと有用性を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 2節 地図の種類とその利用 1 地球儀とさまざまな地図 2 時差の求め方 | 1 | 地図の種類とその利用について、球体としての地球の特徴を捉え、球体を地図に表現した場合の特性や、時差の求め方を通して、現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身につける。 | △ | ◎ | ◎ | ○ | 【関】・地図の種類とその利用について、地球儀を活用して、球体としての地球の特徴と地図に表現した場合の特性、時差に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】・地図の種類とその利用について、球体としての地球上の移動と地図上で表現の特徴や、地球の自転によって時差が生じるしくみを考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】・地球儀の活用法やさまざまな図法に関する諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、球体としての地球やそれを表現した地図、時差について読み取ったり図表などにまとめている。 【知】・地球の球体としての特徴とこれを地図に表現した場合の長所短所、時差の計算法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 3節 地理情報の地図化 | 1 | 地理情報の地図化について、地理情報の統計地図化などの活動を通して、地図の有用性に気づき、現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身につける。 | ○ | ○ | ◎ | △ | 【関】・地理情報を統計地図化する活動を通して、地図の有用性に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】・地理情報を統計地図化するにあたり、どのような表現方法を用いれば適切な地図が作れるかを考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】・地理情報に関するデータなどの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、適切な統計地図に表現している。 【知】・統計地図の表現方法やその長所短所を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 2章 地図の活用と地域調査 | 2 | 地図の活用と地域調査について、直接的に調査できる地域を地形図などの地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色を捉える地理的技能を身につける。 | △ | ○ | △ | ○ | 【関】・地図の活用と地域調査について、直接的に調査できる地域を地形図などの地図の活用と地域調査に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】・地図の活用と地域調査について、地形図や資料を活用した地域調査を通して生活圏の地域的特色を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】・地域調査に関するデータや地形図などに関する諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、生活圏の地域調査について図表や発表用資料などにまとめている。 【知】・地域調査の情報収集から発表までの方法や地形図や空中写真の読図方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| 5 | 第2部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 1節 世界の地形 1 世界の大地形 2 外的営力によってつくられる小地形 3 その他の地形 | 6 | 世界の地形について、営力的な視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察するとともに、災害と意思など人間生活との関わりを考察する。 | △ | ○ | ○ | ◎ | 【関】・世界の地形について、営力的な視点からさまざまな大地形、小地形、その他の地形があることの考察を基に、災害と意思など人間生活との関わりに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】・世界の地形について、内的営力、外的営力といった営力的な視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】・世界の地形と人間生活との関わりに関するデータや写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、世界の大地形、小地形、その他の地形の分布や成因と人間生活との関わりについて読み取ったり図表などにまとめている。 【知】・世界の大地形、小地形、その他の地形について、系統地理的に捉える視点や考察方法、人間生活との関わりを理解し、その知識を身につけている。 |
| | 2節 世界の気候 1 気候の成り立ち 2 世界の気候区分 3 植生と土壌 | 9 | 世界の気候について、気候要素と気候因子の関係から、その成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴と農業など人間生活への影響を考察する。 | △ | ○ | ○ | ◎ | 【関】・世界の気候について、気候要素と気候因子の関係から、さまざまな気候が成り立つことへの考察を基に、各気候区の特徴や農業など人間生活への影響に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】・世界の気候について、気温、風、降水といった気候要素と緯度、水陸分布などの気候因子の関係から、気候の成り立ちを系統地理的に捉える視点や考察方法を基に、各気候区の分布や農業など人間生活への影響を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】・世界の気候と人間生活への影響に関するデータや写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、世界の気候の特徴と農業など人間生活への影響について読み取ったり図表などにまとめている。 【知】・世界の気候の成因、各気候区の特徴について、系統地理的に捉える視点や考察方法、人間生活への影響などを理解し、その知識を身につけている。 |
| 6 | 3節 日本の自然の特徴と人々の生活 1 日本の地形 2 日本の気候 3 日本の自然災害と防災 | 2 | 日本の自然の特徴と人々の生活について、地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】・日本の自然の特徴と人々の生活について、日本の地形や気候が世界と比較して特徴的であること、これによって生じる自然災害も特徴的であることの考察を基に、防災のあり方に対する課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】・日本の自然の特徴と人々の生活について、プレート境界に位置し内的営力によって形成された地形の特徴や大陸東岸に位置する島弧という気候の特徴から、日本の自然を系統地理的に捉える視点や考察方法を基に、自然災害の特徴やこれに対する防災のあり方を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】・日本の地形と気候、自然災害と防災に関するデータや写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、日本の地形と気候、自然災害と防災について読み取ったり図表などにまとめている。 【知】・日本の地形と気候の特徴とこれによって生じる自然災害の特徴について、系統地理的に捉える視点や考察方法、これに対する防災のあり方を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 4節 環境問題 1 世界の環境問題 2 さまざまな環境問題 3 日本の環境問題 | 5 | 環境問題について、世界の環境問題の成因や特徴と対策、地域的な分布を大観し、さまざまな環境問題のうちから地球温暖化、森林破壊、砂漠化について、事例を考察する。日本の環境問題の特徴と対策について考察する。 | ○ | ○ | ○ | △ | 【関】・環境問題について、世界の環境問題の概要や具体的事例、日本の環境問題に関する考察を基に、環境問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】・環境問題について、自然環境の学習を生かして、世界の環境問題の成因や特徴と地域的な分布を大観し、さまざまな環境問題のうちから地球温暖化、森林破壊、砂漠化についての事例や、日本の環境問題の特徴と対策について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】・環境問題とその対策に関するデータや写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に環境問題とその対策について読み取ったり図表などにまとめている。 【知】・世界の環境問題の概要と対策、地球温暖化、森林破壊、砂漠化の事例、日本の環境問題の特徴と対策について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| 6 | 2章 資源と産業 1節 産業の発達と変化 | ## | 産業の発達と変化について、自然環境との関わりやグローバル化の視点から考察する。 | ○ | ◎ | ○ | △ | 【関】・産業の発達と変化について、自然環境との関わりやグローバル化に関する考察を基に、産業の発達と変化に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】・産業の発達と変化について、産業の発達と自然環境とのよいかかわりについて、グローバル化によって産業がどのように変化しているかということ、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】・産業の発達と変化に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、産業の発達と変化について読み取ったり図表などにまとめている。 【知】・自然環境との関わりやグローバル化の視点から、産業がどのように発達し変化しているかについて、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 2節 世界の農林水産業 1 農業の発達と分布 2 世界の農業地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 世界の林業・水産業 5 日本の農林水産業 | ## | 世界の農林水産業について、農業地域区分や、現代世界の農林水産業の現状と課題、及び世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。 | ○ | ◎ | △ | ◎ | 【関】・世界の農林水産業について、農業地域区分や林水産業に関する分布や動向などに関する考察を基に、現代世界と日本の農林水産業に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】・世界の農林水産業について、グローバル化が進むなかでの現代世界や日本の農業の現状と課題を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】・農林水産業の生産や分布の特徴に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、農林水産業の現状や課題について読み取ったり図表などにまとめている。 【知】・各農業地域の分布や特徴、世界や日本の農業の動向について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |

| 月 | 単元と項目 | 時数 | 学習の目標(わらい)及び内容 | 評価の観点 | | | | 評価規準 |
|----|--|----|---|----------------|------------------|------------------|------------------|--|
| | | | | 関心 意欲 態度 | 思 考 判 断 | 技 能 表 現 | 知 識 理 解 | |
| 7 | 3節 食料問題 1 世界の食料問題 2 さまざまな食料問題 3 日本の食料問題 | 2 | 食料問題について、世界の食料供給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国、先進国、日本について的事例を考察する。 | ◎ | ○ | △ | ○ | 【関】食料問題について、食料供給の地域的なかたよりに不安定さに関する考察を基に、発展途上国や先進国、日本の食料問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】食料問題について、発展途上国や先進国、日本の食料問題の状況とその成因を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】食料の生産と消費の地域的なかたよりに関する統計や事例などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、食料問題について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】発展途上国、先進国、日本の食料事情の動向について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 4節 世界のエネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の利用と分布 2 鉱産資源の分布 | 3 | 世界のエネルギー・鉱産資源について、エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。 | ○ | ◎ | △ | ◎ | 【関】世界のエネルギー・鉱産資源について、エネルギー資源や鉱産資源の分布や動向などに関する考察を基に、エネルギー資源や鉱産資源の利用に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】世界のエネルギー・鉱産資源について、それぞれの資源の特徴や利用法、分布のかたよりを、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】エネルギー資源や鉱産資源の生産や分布に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、資源の生産や分布について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】エネルギー資源・鉱産資源の種類と利用法、分布や動向などについて、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 5節 資源・エネルギー問題 1 現代世界の資源・エネルギー問題 2 さまざまな資源・エネルギー問題 3 日本の資源・エネルギー問題 | 3 | 資源・エネルギー問題について、現代世界の資源・エネルギー問題を大観し、世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題を考察する。 | ○ | ◎ | △ | ◎ | 【関】資源・エネルギー問題について、生産・消費の不均衡とさまざまな資源・エネルギー問題の動向に関する考察を基に、世界と日本の資源・エネルギーの利用に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】資源・エネルギー問題について、生産と消費の不均衡や利用法の課題、石油情勢の背景やこれからのエネルギー利用のあり方を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】資源やエネルギーの生産と消費に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、資源・エネルギー問題について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】資源やエネルギーの不均衡や石油情勢、エネルギーのあり方について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| 9 | 6節 世界の工業 1 工業の発達と立地 2 世界の工業地域 3 現代世界の工業の現状と課題 4 日本の工業 | 6 | 世界の工業について、工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。 | ○ | ◎ | △ | ◎ | 【関】世界の工業について、工業の発達や立地、工業地域の分布や動向などに関する考察を基に、世界と日本の工業に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】世界の工業について、工業の発達や立地の考え方や世界や日本の工業の現状とその背景、グローバル化が進むなかの課題を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】工業生産や地域的な分布に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、世界の工業について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】各工業や工業地域の特徴、分布や動向などについて、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 7節 第3次産業 1 第3次産業の発展 2 世界の観光業 | 1 | 第3次産業について、現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察する。 | △ | ○ | △ | ○ | 【関】第3次産業について、現代世界の第3次産業の発展と世界と日本の観光業の特色に関する考察を基に、第3次産業や観光業に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】第3次産業について、情報化の進展と第3次産業の変化や役割、観光の国際化と多様化を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】商業やサービス業、観光業の動向に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、第3次産業の動向について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】商業やサービス業、観光業の特色や動向などについて、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 8節 世界を結ぶ交通・通信 1 世界の交通網 2 情報と通信 | 1 | 世界を結ぶ交通・通信について、交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。 | △ | ○ | △ | ○ | 【関】世界を結ぶ交通・通信について、交通や通信の発達に関する考察を基に、交通・通信や情報の一体化と地域差に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】世界を結ぶ交通・通信について、交通や通信の発達によって、交通・通信や情報が一体化する一方で地域差も生じていることを、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】各種交通の運行状況やインターネットなど通信の普及に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、世界を結ぶ交通・通信について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】交通や通信の発達の状況や一体化の進行、地域差の拡大について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| 10 | 9節 現代世界の貿易と経済圏 1 私たちの生活を支える貿易 2 現代世界の貿易の現状と課題 3 日本の貿易の現状と課題 | 2 | 現代世界の貿易と経済圏について、世界貿易や経済圏の現状と課題を、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題を考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】現代世界の貿易と経済圏について、貿易や経済圏の動向などに関する考察を基に、世界経済の現状や日本の貿易や経済に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】現代世界の貿易と経済圏について、多様化する貿易や貿易の地域差、経済圏と貿易のあり方を系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】世界の国家間や経済圏間の貿易に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、現代世界の貿易と経済圏について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】貿易に関する用語や経済圏の組織、世界の貿易の特色や動向などについて、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 3章 人口、村落・都市 1章 世界の人口 | 1 | 世界の人口について、世界人口の分布の特色や動向、人口構成や人口転換を考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】世界の人口について、世界人口の分布や動向などに関する考察を基に、人口構成や人口転換に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】世界の人口について、世界の人口分布のかたよりと人口増加の原因、人口構成と人口転換の考え方、国際的な人口移動の背景を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】世界や州別・国別の人口分布や動向に関するデータなどの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、世界人口の特色について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】世界人口の分布と動向、人口構成の特色と人口転換のしくみを、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 2章 人口問題 1 世界の人口問題 2 発展途上国の人口問題 3 先進国の人口問題 4 日本の人口問題 | 2 | 人口問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | 【関】世界の人口問題について、発展途上国、先進国、日本の事例に関する考察を基に、人口問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】世界の人口問題について、発展途上国の人口爆発の要因、先進国や日本の少子高齢化のしくみを、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】人口爆発や少子高齢化の人口動態に関する統計や事例などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、世界の人口問題について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】発展途上国、先進国、日本について、人口問題の実態を系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 3章 村落と都市 1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の機能と生活 4 日本の都市 | 4 | 村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。 | ○ | △ | ◎ | ○ | 【関】村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能、日本の都市の特徴に関する考察を基に、村落や都市に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】村落と都市について、集落はどのように発生し、どのように都市として発達したか、都市はどのような機能をもち、構造はどうなっているか、日本の都市の特徴は何かを、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】都市の人口や分布、都市の地域構造に関する統計や地図などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、村落と都市について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】村落と都市の立地、発達、機能や日本の都市の特徴について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 4章 都市・居住問題 1 世界の都市・居住問題 2 日本の都市・居住問題 | 4 | 都市・居住問題について、世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のかたよりを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、都市・居住問題の解決には何が必要かを考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】都市・居住問題について、発展途上国、先進国、日本に関する考察を基に、都市・居住問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】都市・居住問題について、世界の都市・居住問題の要因と発生のかたよりや都市・居住問題の解決には何が必要かを、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】発展途上国、先進国、日本の都市・居住問題に関する統計や事例などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、都市・居住問題について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】発展途上国、先進国、日本の都市・居住問題の特徴や、解決への道筋について、系統地理的に捉える視点や課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】世界の生活文化について、さまざまな衣食住の地域的な差異の背景、世界と日本の衣食住の変化と世界的な画一化の要因を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】世界の衣食住の写真や巨大企業の海外進出のデータなどの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、生活文化の地域的な差異や画一化について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】衣食住の分布や地域的な差異の特徴や画一化の進行について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 4章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化 1 生活文化の地域的な差異 2 生活文化の世界的な画一化 3 日本の生活文化 | 2 | 生活文化について、衣食住を取りあげ、それらの分布や地域的な差異と世界的な画一化について考察する。 | ◎ | ○ | △ | ○ | 【関】世界の生活文化について、地域的な差異と画一化に関する考察を基に、世界の生活文化に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】世界の生活文化について、さまざまな衣食住の地域的な差異の背景、世界と日本の衣食住の変化と世界的な画一化の要因を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】世界の衣食住の写真や巨大企業の海外進出のデータなどの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、生活文化の地域的な差異や画一化について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】衣食住の分布や地域的な差異の特徴や画一化の進行について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |

| 月 | 単元と項目 | 時数 | 学習の目標(わらい)及び内容 | 評価の観点 | | | | 評価規準 |
|-------------------|--|--|--|----------------|------------------|------------------|--|--|
| | | | | 関心 意欲 態度 | 思 考 判 断 | 技 能 表 現 | 知 識 理 解 | |
| 11 | 2節 民族と宗教 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教 | 2 | 民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | 【関】民族・宗教について、民族・宗教とは何か、生活とどのように関わっているかに関する考察を基に、民族と宗教に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】民族・宗教について、民族とは何かを言語との関わりから、宗教とは何かを生活との関わりから、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】民族と言語や、宗教と生活の関わりに関する写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、民族・宗教の分布や特徴、生活との関わりについて読み取ったり図表などにまとめている。 【知】世界の言語分布や宗教の特徴、生活との関わりについて、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 3節 現代世界の国家 | 1 | 現代世界の国家について、国境と領域のさまりやさまざまな国家の分類について考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】現代世界の国家について、領域・国境やさまざまな国家に関する考察を基に、現代世界の国家に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】現代世界の国家について、国家と領域・国境のあり方、国家と主権の考え、さまざまな国家と国家間の関係の課題を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】領域・国境やさまざまな国家に関するデータなどの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、現代世界の国家について読み取ったり図表などにまとめている。 【知】国境と領域のさまり、さまざまな国家の分類について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 4節 民族・領土問題 1 世界の民族・領土問題 2 民族・領土から捉えた日本 3 民族と宗教の共生に向けての課題 | 5 | 民族・領土問題について、現代世界の民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】現代世界の民族・領土問題について、言語・宗教をめぐる問題、領土をめぐる問題に関する考察を基に、現代世界の民族・領土問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】現代世界の民族・領土問題について、世界各地や日本の事例を取り上げ、問題を起こる背景や、これを解決して民族が共生するための方策を、系統地理的に捉える視点や考察方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】世界各地でおこっている民族・宗教や領土に関する紛争のデータや事例などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、現代世界の民族・領土問題について読み取ったり図表などにまとめている。 【知】世界各地の民族・宗教や領土に関する問題を整理し、多文化共生の事例について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か | ## | 地域区分とは何かについて、地域概念や地域区分の目的、意義を理解し、有用性につく。 | △ | ○ | △ | ○ | 【関】地域区分とは何かについて、地域概念や地域区分の目的、意義の理解を基に、地域区分とは何かに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】地域区分とは何かについて、地域とは何か、どのような視点や方法で区分できるか、地域区分することの意義や有用性を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】地域区分の方法や統計地図の作成に関する諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、地域区分とは何かについて読み取ったり図表などにまとめている。 【知】地域にはどのような概念があるか、地域区分にはどのような方法があるかを理解し、その知識を身につけている。 |
| 2節 地域区分のさまざまなスケール | ## | 地域区分のさまざまなスケールについて、大地域と小地域のスケールによる違いを理解し、有用性につく。 | △ | ○ | △ | ○ | 【関】地域区分のさまざまなスケールについて、大地域と小地域のスケールによる違いの理解を基に、地域区分のスケールに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】地域区分のさまざまなスケールについて、大地域から小地域へ、小地域から大地域へ、地域区分の意義や有用性を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】スケールの違いによる地域区分の地図などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、地域区分におけるスケールとは何かについて読み取ったり図表などにまとめている。 【知】大地域と小地域のスケールによる地域区分の違いの意義、有用性を理解し、その知識を身につけている。 | |
| | 2章 現代世界の諸地域 1節 地誌の考察方法 | ## | 地誌の考察方法について、地誌的に考察する方法として、多様な事象を項目ごとに整理して考察する方法、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察する方法、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する方法があることを理解する。 | △ | ○ | △ | △ | 【関】地誌の考察方法について、地誌的に考察する三つの方法の理解を基に、地誌の考察に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】地誌の考察方法について、多様な事象を項目ごとに整理して静的に考察する方法、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する方法、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する方法の三つの方法には、考え方にどのような特徴があり、これによってどのようなことがわかるのかを、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】地誌的に考察する方法に関する事例などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、地誌の考察方法について読み取ったり図表などにまとめている。 【知】多様な事象を項目ごとに整理して静的に考察する方法、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する方法、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する方法の三つの方法とはどのような捉え方を理解し、その知識を身につけている。 |
| 12 | 2節 東アジア 変化に富んだ地形と気候 1 多くの民族と人口を抱える中国 2 中国の食生活と農業の変化 3 中国の工業化と経済発展 4 今後の中国の動向と日本 5 朝鮮半島の成り立ち 6 韓国の産業の発展と変化 7 韓国との交流と今後の動向 | 7 | 東アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業、韓国との交流という多様な事象を項目ごとに整理して静的に考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】東アジアについて、中国や朝鮮半島の自然・歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球の課題を基に、東アジアに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】東アジアについて、日本との関係を含む中国や朝鮮半島の歴史的背景をふまえた地域の変容や構造、中国の人口増加と経済格差や中国・韓国の経済発展のしくみなどの地域的特色や地球の課題を、項目ごとに整理して静的に考察する方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】東アジアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、東アジアについて読み取ったり図表などにまとめている。 【知】東アジアの自然の特徴、日本との関係を含む中国や朝鮮半島の歴史的背景をふまえた地域の変容や実態、中国の人口増加と経済格差や中国・韓国の経済発展の実態などの地域的特色や地球の課題について、項目ごとに整理して静的に考察する方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 3節 東南アジア モンスーンの影響を受ける自然 1 東南アジアの歴史と多様性に富む文化・民族 2 東南アジアの農業とその変化 3 ASEANの結成と工業の発展 4 ASEAN諸国の変化と諸課題 | 4 | 東南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、自然、歴史と文化・民族、農業と変化、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化と諸課題という多様な事象を項目ごとに整理して静的に考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】東南アジアについて、インドを中心とした地域、東南アジア諸国の自然・歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球の課題を基に、東南アジアに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】東南アジアについて、東南アジア諸国の多様性に富む文化や民族、歴史的背景をふまえた地域の変容や構造、ASEAN諸国にみられる農業の変化や工業の発展のしくみ、地域格差や都市問題のしくみや考え方の地域的特色や地球の課題を、項目ごとに整理して静的に考察する方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】東南アジアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、東南アジアについて読み取ったり図表などにまとめている。 【知】東南アジアの自然の特徴、東南アジア諸国の多様性に富む文化や民族、歴史的背景をふまえた地域の変容の実態、ASEAN諸国にみられる農業の変化や工業の発展、地域格差や都市問題の地域的特色や地球の課題について、項目ごとに整理して静的に考察する方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 4節 南アジア 三つに分けられる地形とモンスーンの影響を受ける気候 1 南アジアの歩みとヒンドゥー教 2 インドの農業と農村の変化 3 発展するインドの工業・IT産業 | 3 | 南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの農業と農村、インドの産業という多様な事象を項目ごとに整理して静的に考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】南アジアについて、インドを中心とした地域、南アジアの自然・歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球の課題を基に、南アジアに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】南アジアについて、インドのヒンドゥー教を中心とした社会の歴史的背景をふまえた地域の変容や構造、インドの農業の発展と農村の変化と課題、IT産業の発展のしくみなどの地域的特色や地球の課題を、項目ごとに整理して静的に考察する方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】南アジアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、南アジアについて読み取ったり図表などにまとめている。 【知】南アジアの自然の特徴、インドのヒンドゥー教を中心とした社会の歴史的背景をふまえた地域の変容の実態、インドの農業の発展と農村の変化、IT産業の発展の実態などの地域的特色や地球の課題について、項目ごとに整理して静的に考察する方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| 1 | 5節 西アジアと中央アジア 乾燥した大地が広がる二つの地域の自然 1 イスラームを中心とした生活文化 2 交易を軸に発達した都市 3 めぐまれた資源と産業 | 3 | 西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目した地域区分に基づき、自然、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と産業の面において、類似的な性格の二つの地域を比較して考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境の地域にみられる地域的特色や地球の課題を基に、西アジアと中央アジアに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】西アジアと中央アジアについて、二つのアジア地域のイスラームを中心とした生活文化の歴史的背景をふまえた地域の変容や構造、交易を軸に発展した都市の共通性の背景、恵まれた資源と産業の共通性と課題などの地域的特色や地球の課題を、類似的な性格の二つの地域を比較して考察する方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】西アジアと中央アジアに関する統計や主題図・写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、西アジアと中央アジアについて読み取ったり図表などにまとめている。 【知】西アジアと中央アジアの自然の特徴、二つのアジア地域のイスラームを中心とした生活文化の歴史的背景をふまえた地域の変容の実態、交易を軸に発展した都市や恵まれた資源と産業などの共通する地域的特色や地球の課題について、類似的な性格の二つの地域を比較して考察する方法を理解し、その知識を身につけている。 |
| | 6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 赤道を軸に南北で対照的な二つの地域の気候と植生 1 歴史的な背景によって形成された多様な文化 2 一次産品への依存が強い産業 3 人々の生活の変化と他地域との結びつき | 3 | 北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化というに着目した地域区分に基づき、気候と植生、歴史的な背景と文化、一次産品への依存、生活の変化と他地域との結びつき等の面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化の地域的特色や地球の課題を基に、北アフリカとサハラ以南のアフリカに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化の歴史的背景をふまえた地域の変容や構造、これによって生まれた文化の異質性、一次産品への依存が強い経済構造とその違い、生活の変化と他地域との結びつきのしくみなどの地域的特色や地球の課題を、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】北アフリカとサハラ以南のアフリカに関する統計や主題図・写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、北アフリカとサハラ以南のアフリカについて読み取ったり図表などにまとめている。 【知】北アフリカとサハラ以南のアフリカの自然の特徴、中近東文化と中南アフリカ文化の地域的特色や地球の課題を基に、北アフリカとサハラ以南のアフリカに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 |

| 月 | 単元と項目 | 時数 | 学習の目標(ねらい)及び内容 | 評価の観点 | | | | 評価規準 |
|---|--|----|---|--------|------|------|------|--|
| | | | | 関心意欲態度 | 思考判断 | 技能表現 | 知識理解 | |
| 2 | 7節 ヨーロッパ 高緯度でも温暖な気候と安定した大地 ヨーロッパの成り立ち 1 ヨーロッパの成り立ち 2 結びつくヨーロッパ 3 ヨーロッパの多様な農業と共通農業政策 4 移り変わるヨーロッパの工業 5 これからのヨーロッパ | 5 | ヨーロッパについて、形式的な地域区分に基づき、気候と大地、ヨーロッパの成り立ち、域内の結びつき、農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからのヨーロッパという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】：ヨーロッパについて、ヨーロッパの各地域の自然・歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球的課題を基に、ヨーロッパに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】：ヨーロッパについて、産業革命以来の歴史的背景をふまえた地域の変容や構造、各地域の民族と宗教の課題、EUを中心とした地域の結びつきと農業・工業のしくみや変化の構造的課題などの地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察する方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】：ヨーロッパの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、ヨーロッパについて読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】：ヨーロッパの自然の特徴、産業革命以来の歴史的背景をふまえた地域の変容の実態、各地域の民族と宗教の課題、EUを中心とした地域の結びつきと農業・工業の変化の実態などの地域的特色や地球的課題について |
| | 8節 ロシア 広大な国土と多様な自然環境 1 ロシアの歴史と社会の変化 2 大きく変化したロシアの産業 3 極東ロシアと日本の結びつき | 2 | ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境に着目した地域区分に基づき、歴史と社会の変化、変化した産業、極東ロシアと日本の結びつきという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 | ○ | ○ | △ | ○ | 【関】：ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境の地域にみられる地域的特色や地球的課題を基に、ロシアに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】：ロシアについて、かつての社会主義国としての歴史的背景をふまえた地域の変容や構造、社会主義時代からの農業構造の変容、現代ロシアの鉱工業の構造、極東ロシアと日本との関係の課題などの地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察する方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】：ロシアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、ロシアについて読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】：ロシアの自然の特徴、かつての社会主義国としての歴史的背景をふまえた地域の変容の実態、社会主義時代からの農業構造の変容や現代ロシアの鉱工業の実態、極東ロシアと日本との関係の課題などの地域的特色や地球的課題について |
| | 9節 アングロアメリカ 南北と東で異なる自然環境 1 移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 2 アメリカ合衆国の人口と都市 3 世界の農業のかぎをにぎるアメリカ合衆国 4 進展する科学技術と産業 5 世界のなかのアメリカ合衆国 6 アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダ | 5 | アングロアメリカについて、ゲルマン文化という文化に着目した地域区分に基づき、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界のなかのアメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】：アングロアメリカについて、移民国家としてのアメリカ合衆国やカナダにみられる地域的特色や地球的課題を基に、アングロアメリカに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】：アングロアメリカについて、北西ヨーロッパからの移民が建国した歴史的背景をふまえた地域の変容や構造、アメリカ合衆国の移民国家としての人種・民族の課題、大都市問題のしくみや、農業と工業の変化と課題、世界への経済・文化的影響、アメリカ合衆国とカナダの関係のしくみやなどの地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察する方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】：アングロアメリカに関する統計や主題図・写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、アングロアメリカについて読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】：アングロアメリカの自然の特徴、北西ヨーロッパからの移民が建国した歴史的背景をふまえた地域の変容の実態、アメリカ合衆国の移民国家としての人種・民族の課題、大都市問題の実態、農業と工業の変化と実態、世界への経済・文化的影響、アメリカ合衆国とカナダの関係のしくみやなどの地域的特色や地球的課題について、項目ごとに整理して静態的に考察する方法を理解し、その知識を身に付けている。 |
| 3 | 10節 ラテンアメリカ 南北と標高で異なる自然環境 1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化 2 大土地所有制と農業の変化 3 鉱産資源を基盤とした工業化と生活の変化 | 3 | ラテンアメリカについて、ローマン文化という文化に着目した地域区分に基づき、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】：ラテンアメリカについて、スペインやポルトガルの影響を強く受けた地域的特色や地球的課題を基に、ラテンアメリカに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】：ラテンアメリカについて、先住民の文明がスペインやポルトガルに植民地化された歴史的背景をふまえた地域の変容や構造、これによって、複雑な人種・民族構成や大土地所有制による農業の特徴が生み出したしくみや、鉱産資源を基盤とした工業化の進展と格差の実態などの地域的特色や地球的課題を、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】：ラテンアメリカに関する統計や主題図・写真など諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、ラテンアメリカについて読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】：ラテンアメリカの自然の特徴、先住民の文明がスペインやポルトガルに植民地化された歴史的背景をふまえた地域の変容の実態、これによって生まれた複雑な人種・民族構成や大土地所有制による農業の特徴、鉱産資源を基盤とした工業化の進展と格差の実態などの地域的特色や地球的課題について、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する方法を理解し、その知識を身に付けている。 |
| | 11節 オセアニア 一つの大陸と太平洋の島々 1 オセアニアの移民の歴史と多文化社会 2 モノや人の移動で強まるアジアとの結びつき 3 資源を通じて強まるアジア諸国との結びつき 4 アジア諸国に輸出される農畜産物 | 3 | オセアニアについて、形式的な地域区分に基づき、一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、強まるアジアとの結びつき、アジア諸国に輸出される農畜産物という特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する。 | ○ | ◎ | △ | ○ | 【関】：オセアニアについて、一つの大陸と太平洋の島々の自然、オーストラリア、ニュージーランドの歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球的課題を基に、オセアニアに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】：オセアニアについて、オーストラリア、ニュージーランドの移民の歴史的背景をふまえた地域の変容や構造、これによって、オーストラリア、ニュージーランドの民族・文化的特徴が生み出したしくみや、深まるアジアとの関係と課題などの地域的特色や地球的課題を、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】：オセアニアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、オセアニアについて読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】：オセアニアの自然の特徴、オーストラリア、ニュージーランドの移民の歴史的背景をふまえた地域の変容と実態、これによって生まれたオーストラリア、ニュージーランドの民族・文化的特徴、深まるアジアとの関係の実態などの地域的特色や地球的課題について、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する方法を理解し、その知識を身に付けている。 |
| | 3章 現代世界と日本 | 1 | 現代世界における日本の特色について、多面的・多角的に考察し、日本が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土のあり方などについて展望する。 | ○ | ◎ | △ | ◎ | 【関】：現代世界における日本の国土について、現代における日本の特色や日本が抱える地理的な諸課題を基に、現代世界における日本に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【思】：現代世界における日本の国土について、安定成長期を迎えた日本の特色を構造的に捉え、日本が抱える地理的な諸課題とその解決の方向性や将来の国土のあり方などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【技】：現代世界における日本の国土に関する統計などの、諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これを基に、現代世界における日本の国土について読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【知】：安定成長期を迎えた日本の特色や日本が抱える地理的な諸課題を理解し、その知識を身に付けている。 |

(2) 評価方法
定期調査約70%＋平常加点約30%(授業態度・課題・提出物)の総合点で行う。